



## ～お知らせ～

あけましておめでとうございます。  
今年もよろしくお願ひいたします。  
年末年始はいかがお過ごしだったでしょうか。

今年「丑年」で「よいことの前触れの年？」とされています。牛は古くから酪農や農業で人間を助けてくれた大切な動物でした。大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「我慢（耐える）」、「これから発展する前触れ（芽が出る）」というような年になるといわれています。コロナ禍のうえに未曾有の大雪に見舞われましたが、みんなで乗り切っていきましょう。



「初詣」について神社庁の見解を見つけました。医師会を中心にした「真剣勝負の3週間」の呼びかけで年末年始の外出を自粛した人が多かったと思います。そこで引がかかってくるのが、新年の「初詣」です。一般的には松の内に詣でるのがいいとされてきましたが神社によっては分散参拝を呼びられました。そこで神社本庁の見解はどうなのか？初詣とは、新年を迎えてから初めて神社仏閣に参拝する宗教行事。神社の場合は、地域の守り神である氏神にお参りするのが基本となり、これに対し、地縁や血縁的な関係以外の神社が崇敬神社です。神様同士はケンカしないので氏神以外は毎年変えてもよく、両方を参拝してもいいそうです。同様に複数の神社からお礼やお守りを受けても大丈夫。「なにせ神社の神様は、八百万（数えきれないほどたくさん）というほど多くの神様が協力し合っているのだから」（神社本庁HP）という説明です。ただし、一般的に初詣というのは、松の内（関東は1月7日、関西は15日が多い）、遅くとも節分（2021年は2月2日）までに行うのがよいとされてきました。そこで神社本庁に初詣のタイムリミットを聞いてみると「令和3年の初詣は感染拡大防止の観点から各神社によって参拝の方法が例年と異なります。神社本庁としては特に『いつまでがよい』といった基準は設けておらず、各神社の判断に任せております。そもそも初詣が一般化したのは明治期以降であり、決められたルールがあるわけでもありません。地域の風習、旧暦か新暦かでも変わってきます。松の内や節分を過ぎたとしても、御利益に変わりはありません」（神社本庁の広報担当者）実際、大阪の住吉大社や神奈川の鶴岡八幡宮は節分までの分散参拝を奨励。福岡の太宰府天満宮にいたっては「3月末」まで大丈夫とのこと。御利益が変わらないというのなら、あえて密集する時期に行くことはなかったですね。これからでも大丈夫！

**「3つの密を避けましょう！」** ①密室空間 ②密集場所 ③密接場面

**「ウィークリースタンスの徹底を」** お願いします。

- ① 昼休みや16時以降開始の打合せは行わない
- ② 休日明け日（月曜日等）は依頼の期限日としない
- ③ 休前日（金曜日）は新たな依頼をしない
- ④ ノー残業デー（水曜日）は勤務時間外の依頼はしない



[ホームページに追加事項があれば教えて下さい！](#)

[www.hokurikuyouchi.co.jp](http://www.hokurikuyouchi.co.jp)

**○お願い！ 「Aipo」を活用してください。**